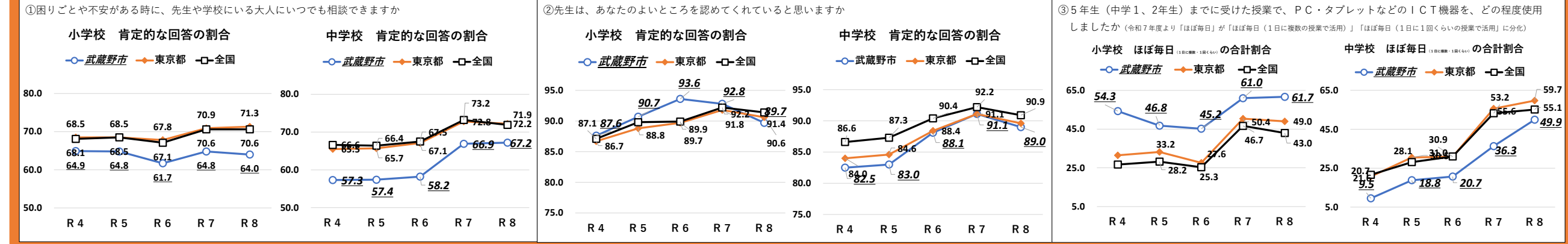


5 児童・生徒質問紙調査の経年変化【回答＝％】 ※第四期学校教育計画で「注目する指標」を中心に抽出

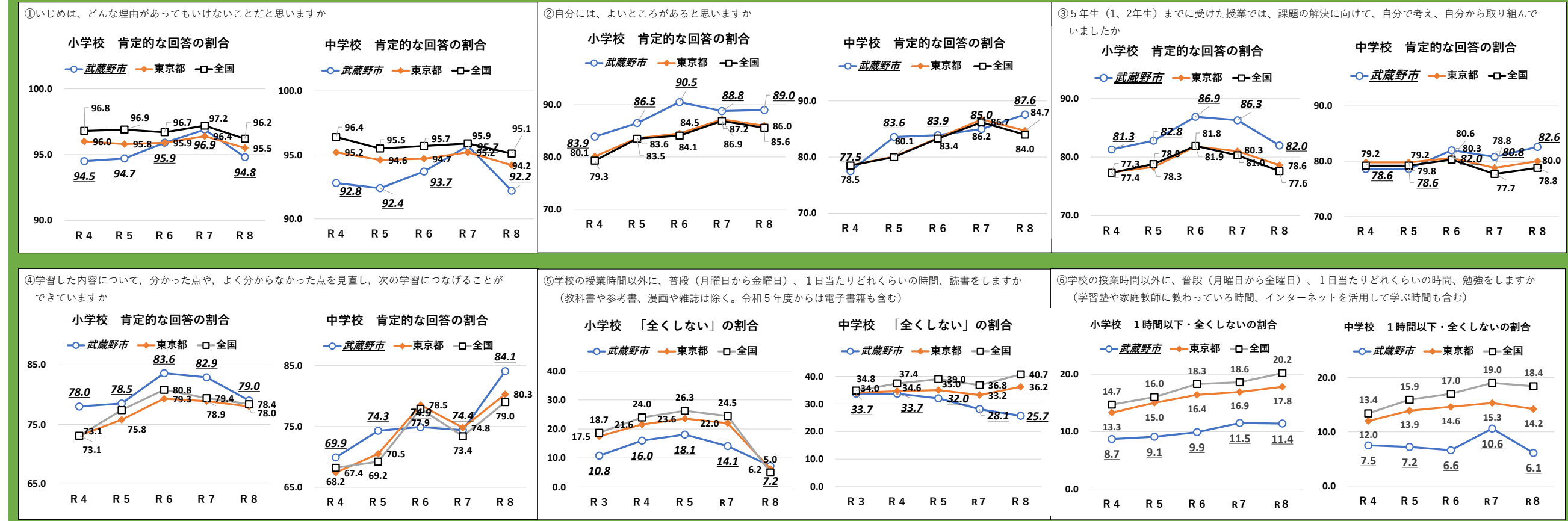
方針Ⅰ 学校での子どもの育ちや学びを支える基盤をつくる（教育相談体制、教育データの活用等）



○「先生や学校にいる大人にいつでも相談できるか」は東京都・全国より依然として低い。また「先生がよいところを認めてくれる」の肯定的割合は9割近いものの、東京都・全国より低く、学校として相談体制や指導の改善を図っていく必要がある。教育委員会としては、教員の時間的、精神的余白を創出するため、働き方改革を進める。

○「ICT機器の使用」について、小学校においては、東京都・全国より日常的な使用が進んでいる。中学校においては東京都・全国より下回っているものの、大幅に使用が進んできている。

方針Ⅱ 自らの人生を切り拓く自信と意欲を育む（よさや可能性の伸長＝安心できる学級風土・生徒指導の改善、自立した学び手の育成＝個別最適な学びと協働的な学び・読書活動等 ※表面も参照）



○「いじめはいけないこと」だと思っている割合は東京都・全国より下回っており、昨年度よりも低下している。各校において「いじめを絶対許さない」といった指導を改善していく必要がある。

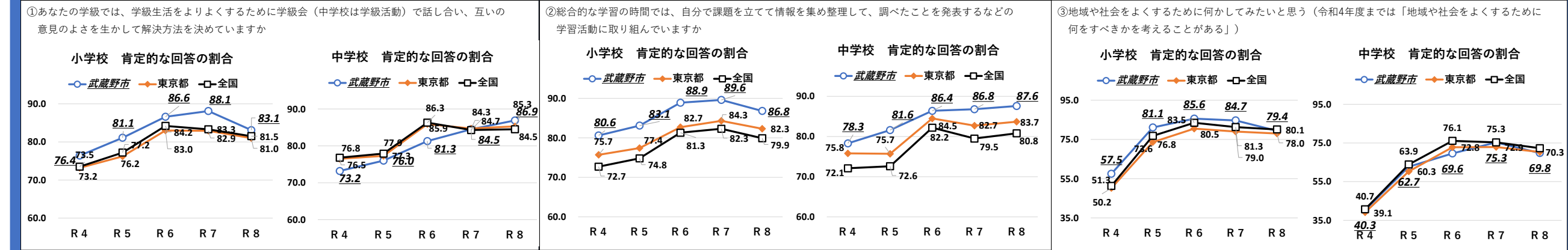
○「自分にはよいところがある」の割合は85%を超え東京都・全国を上回っており、自己肯定感の高さがうかがえる。中学校では年々割合が上がり、今年度東京都・全国を上回った。引き続き、安心できる学級風土、児童・生徒の個性の発見や自己実現を進める指導を継続していく。

○個別最適な学びに向け、「自分で考えて取り組む」主体性や「学習内容を次につなげる」自己調整に関する資質・能力は、東京都・全国より高いものの、小学校では、低下している。一方中学校は向上しており、指導の工夫が図られていることが推察される。小学校でのさらなる指導の工夫が必要である。

○「平日の読書」について、1時間以上の割合は小学校が18.5%、中学校が8.6%だった。いずれも東京都・全国より高く、「全くしない」の割合も低くなっているが、全体として読書時間は減少している。

○「学校以外の勉強時間」では、「1時間以下及び全くしない」の割合が低く、2時間以上の割合は小学校70.1%、中学校83.1%であり、学校外での学習習慣は極めて高い。

方針Ⅲ 多様性を生かし、社会を形成する力を培う（子どもの主体的な教育活動の推進、まちや社会と向き合い、未来を考える学びの推進）



○「学級会や学級活動での話し合い」や「総合的な学習の時間における探究的な学び」の割合は東京都・全国よりも高くなっている。中学校では、年々高くなっており、生徒主体の取組の成果が数値として表れている。一方小学校では、昨年度より低下している。

○「地域や社会をよくしたい」という考えは小・中学校ともに東京都・全国より低くなった。地域の特色を生かした武蔵野市民科をはじめとした探究的な学びを充実させ、さらに地域コーディネーターとの連携を図っていく必要がある。